

京都大学人文科学研究所共同研究実績・活動報告書

(3年計画の2年目)

1. 研究課題

北朝石窟寺院の研究Ⅱ

Studies on the Buddhist Cave-temples in the Northern Dynasties Ⅱ

2. 研究代表者氏名

岡村秀典

Hidenori OKAMURA

3. 研究期間

2020年4月-2023年3月(2年目)

4. 研究目的

中国山西省にある雲岡石窟は、5世紀の北魏時代に開鑿の始まった仏教寺院である。1938年から1944年までの7年間、人文研の水野清一と長廣敏雄らは、その大小すべての石窟を対象に測量・写真撮影・拓本を作成し、戦後にその報告書『雲岡石窟』全16巻32冊を公刊した。そのPDFを京都大学リポジトリに公開した結果、各界から大きな反響が寄せられ、なかでも中国から中国語版の出版について打診があり、人文研と中国社会科学院考古研究所との共同編集により旧版の中文訳に加えて旧版未収録の写真・拓本類を増補した『雲岡石窟』全20巻を出版しつつある。これをふまえて本研究班では、龍門石窟や響堂山石窟など北朝石窟にかんする人文研所蔵写真・拓本類の整理と公開を継続して進める。

The Yungang Caves, located near the city of Datong in Shanxi province in China, are a group of Buddhist cave-temples excavated in the latter half of the fifth century by the Northern Wei dynasty. Between 1938 and 1944, following on from investigations of the Xiangtangshan Caves in Hebei province and the Longmen Caves in Henan province, the Research Institute of Oriental Culture, the predecessor of the Institute for Research in Humanities, Kyoto University, carried out investigations of the Yungang Caves and neighboring sites. A report of these investigations was published in the form of the voluminous Yunkang (1951-1956) in 16 volumes and 32 fascicules by Mizuno Seiichi and Nagahiro Toshio. This research seminar set about researching on the visual materials and field notes collected from such investigations with the goal of systematically digitizing and actively promoting the further use of these research resources, and making them available to the public.

5. 本年度の研究実施状況

中国山西省大同市に所在する雲岡石窟の原報告（水野清一・長廣敏雄『雲岡石窟』全十六卷三二冊、一九五一～一九五六年）第十五卷「西端諸洞」の図版解説、および京都大学人文科学研究所・中国社会科学院考古研究所編『雲岡石窟』第二〇卷（科学出版社東京、二〇一七年）の研究成果をもとに、洛陽遷都後の雲岡石窟について検討した。また、人文研所蔵拓本をもとに、原報告第二卷所収「雲岡金石録」のうち北魏から遼金時代までの石刻を悉皆的に会読し、その成果を「雲岡石刻録」（仮題）として来年度の『東方学報』に発表する予定である。

新型コロナウイルス感染症の影響が読めない中、研究会はZOOMにより共同研究室でのオンサイトとオンラインのハイブリッド形式で実施した。東京など国内の遠隔地や海外の研究者も参加できるため、共同研究のネットワークを広げる試みにも取り組んだ。

6. 本年度の研究実施内容

2021-06-29 雲岡石窟西端諸洞 発表者 岡村秀典
2021-07-20 雲岡石窟西端諸洞 発表者 岡村秀典
2021-10-05 雲岡石窟西端諸洞 発表者 岡村秀典
2021-10-19 雲岡石窟西端諸洞 発表者 岡村秀典
2021-11-16 雲岡石窟西端諸洞 発表者 岡村秀典
2022-01-18 雲岡金石録の再検討 発表者 倉本尚徳
2022-02-01 雲岡金石録の再検討 発表者 倉本尚徳
2022-02-15 雲岡金石録の再検討 発表者 倉本尚徳
2022-03-15 雲岡金石録の再検討 発表者 倉本尚徳

7. 共同研究会に関連した公表実績

岡村秀典著・徐小淑訳『雲岡石窟的考古学研究』（四川人民出版社、二〇二一年）

8. 研究班員

所内

岡村秀典、安岡孝一、フォルテ・エリカ、倉本尚徳、向井佑介、佐藤智水、高志緑、易丹韵

学内

内記理(文化財総合研究センター)、檜山智美(白眉センター)、富岡采花(文学研究科)

学外

外山潔(泉屋博古館)、齋藤龍一(大阪市立美術館)、山名伸生(京都精華大・総合人文学部)、大西磨希子(佛教大・仏教学部)、石松日奈子(東京国立博物館)、濱田瑞美(横浜美術大)、北村一仁(河南農業大)、篠原典生(中央大・総合政策学部)、田林啓(白鶴美術館)、

高橋早紀子(愛知学院大・文)、菅名悠(大阪大谷大・文)、呉虹(復旦大学・哲学学院)、ア
 ヴァンツイ・カルロッタ(秋田県立大)、王珏人(京都国立博物館)、上枝いづみ(金沢大
 学・人間社会研究域)、黄盼(中国社会科学院・考古研究所)、常鈺熙(北京大学・考古文博
 学院)、打本和音(京都芸術大学)

9. 共同利用・共同研究の参加状況

区分	機関数 (必須)	受入人数					延べ人数				
		総計	外国人	若手研究者 (40歳未満)	若手研究者 (35歳以下)	大学院生	総計	外国人	若手研究者 (40歳未満)	若手研究者 (35歳以下)	大学院生
			(0)	(0)	(0)	(0)		(0)	(0)	(0)	(0)
学内(法人内)	1	8	1	2	0	0	33	3	5	0	0
		(2)	(1)	(1)	(0)	(0)	(8)	(3)	(5)	(0)	(0)
国立大学	2	3	1	2	1	1	15	5	10	5	5
		(3)	(1)	(2)	(1)	(1)	(15)	(5)	(10)	(5)	(5)
公立大学	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
		(0)	(0)	(0)	(0)	(0)	(0)	(0)	(0)	(0)	(0)
私立大学	8	8	0	0	0	0	24	0	0	0	0
		(4)	(0)	(0)	(0)	(0)	(23)	(0)	(0)	(0)	(0)
大学共同利用機関法人	0										
独立行政法人等公的研究機関	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
		(0)	(0)	(0)	(0)	(0)	(0)	(0)	(0)	(0)	(0)
民間機関	2	2	0	0	0	0	10	0	0	0	0
		(0)	(0)	(0)	(0)	(0)	(0)	(0)	(0)	(0)	(0)
外国機関	4	4	2	2	2	1	5	5	5	5	5
		(2)	(2)	(2)	(2)	(1)	(5)	(5)	(5)	(5)	(5)
その他	0	0					0				
計	17	25	4	6	3	2	87	13	20	10	10
		(11)	(4)	(5)	(3)	(2)	(51)	(13)	(20)	(10)	(10)

10. 本年度 共同利用・共同研究を活用して発表された論文数

	共同利用・共同研究による成果として発表された論文数		
		うち国際学術誌掲載論文数	
①人文研に所属する者のみの論文(単著・共著)	2		
②人文研に所属する者と人文研以外の国内の機関に所属する者の論文(共著)	0		
③人文研以外の国内の機関に所属する者のみの論文(単著・共著)	0		
④人文研を含む国内の機関に所属する者と国外の機関に所属する者の論文(共著)	0		
⑤国外の機関に所属する者のみの論文(単著・共著)	0		

本年度 共同利用・共同研究による成果として発行した研究書

研究書の名称	編著者名	発行年月	出版社名
雲岡石窟的考古学研究 (中国語版)	岡村秀典	2021. 1	四川人民出版社

11. 費目の30%を超える大幅な変更があった場合の変更理由

なし

12. 次年度の研究実施計画

引きつづき中国山西省大同市に所在する雲岡石窟の原報告(水野清一・長廣敏雄『雲岡石窟』全十六巻三二冊、一九五一～一九五六年)を参照しつつ、人文研所蔵拓本をもとに、原報告第二巻所収「雲岡金石録」のうち北魏から遼金時代までの石刻を悉皆的に会読し、その成果を「雲岡石刻録」(仮題)として来年度の『東方学報』に発表する。また、新型コロナウイルス感染症拡大のため延期になっていた招へい研究員のYI Lidu(フロリダ国際大学)氏が四月に来学できることになり、六月から北朝石窟に関する数回の連続セミナーを計画している。

新型コロナウイルス感染症の影響が読めない中、研究会はZOOMにより共同研究室でのオンラインとオンラインのハイブリッド形式で実施する予定である。東京など国内の遠隔地や海外の研究者も参加できるため、共同研究のネットワークを広げる試みにも取り組

んでみたい。

13. 次年度の経費

なし

14. 研究成果公表計画および今後の展開等

水野清一・長廣敏雄『龍門石窟の研究』（座右宝刊行会、1941年）の中国語版を中国鄭州の大象出版社から出版する準備を進め、本学との間で出版契約を締結したほか、岡村秀典『雲岡石窟の考古学』（臨川書店、2017年）の中国語版について四川人民出版社との間で出版契約を締結し、2020年の刊行をめざしている。東京大学東洋文化研究所と協力して100年前の中国石窟写真を集大成した『中国文化遺産』石窟巻（中国語版全5巻）の執筆・翻訳と編集を進め、2020年に清華大学出版社から刊行する予定である。